

【R5:先-11】インバウンド誘客等による小さな拠点活性化のための 官民連携手法検討調査(実施主体:香川県高松市)

高松市基礎情報(R5.1.1時点)

・人口:41万人

・面積:375.4km²

【事業分野:道の駅, エリアマネジメント, その他】【対象施設:道の駅, 温泉施設, 公共交通】

【事業手法:指定管理者制度、公共施設等運営権制度(コンセッション)、包括管理等】

調査のポイント

- ・ 中山間地域における、「新しい道の駅」「キャンプ場」「温泉水給水事業」「持続可能な交通網の構築」等を包括的に管理運営する官民連携手法を検討
- ・ 複数主体(高松空港、交通機関、周辺の自治体等)と連携したインバウンド誘客により、小さな拠点活性化に寄与する仕組みや民間事業者と地元地域の共創が生まれる推進体制を検討

事業／施設概要

整備予定の道の駅(全景)



「塩江温泉郷」の位置



- ・ 高松の奥座敷とも言われる塩江温泉郷の活性化と観光振興に向けて、同地を「オンリーワンの価値を持つ温泉郷」に磨き上げるため、道の駅を生かした「小さな拠点」整備を実施。
- ・ 新たな塩江地区の顔となる地域・観光交流拠点(ゲートウェイ)として、道の駅を再整備し、医療施設の併設や物販・飲食、温浴、観光情報発信等の機能を導入予定。
- ・ 新しい道の駅と合わせて市営キャンプ場や市が実施している温泉水給水事業、持続可能な交通網の構築等に関する管理運営を官民連携により一体的に実施し得るか調査を実施。

○温泉水給水事業

- 市所有の源泉から宿泊施設や福祉施設等へ温泉水を配分、配管等の施設の維持管理を実施

○持続可能な交通網の構築

- コミュニティバスと最新技術を活用した交通手段の融合や空港間の直通バスの運行等を検討

目的・これまでの経緯

【これまでの経緯】

- H29年度 : 塩江温泉郷活性化基本構想
- R2年度 : 高松市塩江道の駅エリア整備基本計画
- R3年度 : 高松市過疎地域持続的発展計画
- R3年度 : 都市再生整備計画塩江地区
- R4年度 : 道の駅エリア整備実施設計

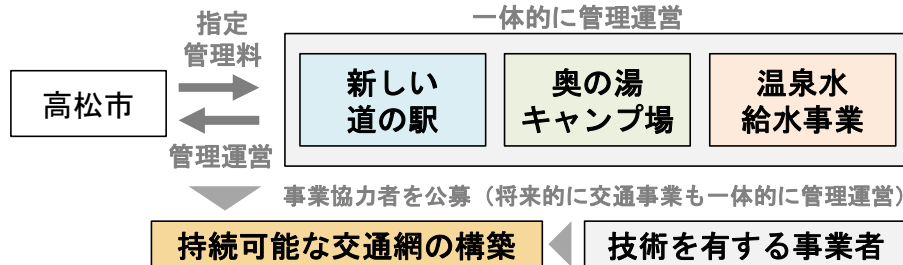
【本事業の目的】

- ① 地元地域や民間事業者のニーズ、小さな拠点や塩江温泉郷のあるべき姿、官民連携に対する声等を把握
 - ・ 地元関係者、交通事業者、温泉水給水先等を対象にアンケート調査やヒアリング調査を行い、官民連携を進めるうえでの課題や条件を把握するとともに、小さな拠点や塩江温泉郷のあるべき姿、貢献できる内容や活性化のアイデア、インバウンド誘客等について把握
- ② 小さな拠点として民間事業者が管理運営可能な範囲と適切な事業スキーム、地元の連携体制を調査・検討
 - ・ 単なる道の駅の管理運営ではなく、キャンプ場や温泉水給水事業、持続可能な交通網の構築等を地元と連携して一体的にマネジメント出来る仕組みを調査・検討
- ③ 高松空港や宿泊施設等と連携したインバウンド等の活力の取込みに関する調査・検討
 - ・ 航空機欠航時やA2-BCPに寄与する災害時のターミナルビル滞留者の受入れ体制構築や空港と道の駅を結ぶ直通バス、インバウンドを取り込む施策を検討・協議

【R5:先-11】インバウンド誘客等による小さな拠点活性化のための官民連携手法検討調査 (実施主体:香川県高松市)

検討結果①小さな拠点を核とした管理運営手法

- 新しい道の駅、奥の湯キャンプ場、温泉水給水事業を一体的に管理運営する指定管理者制度を採用し、エリア全体をマネジメント
- 点在する施設や資源を繋ぎFITの誘客や住民の交通利便性に寄与する持続可能な交通網を構築するため、交通事業のトライアルが可能な事業協力者を公募⇒トライアルによりリスク低減、体制構築



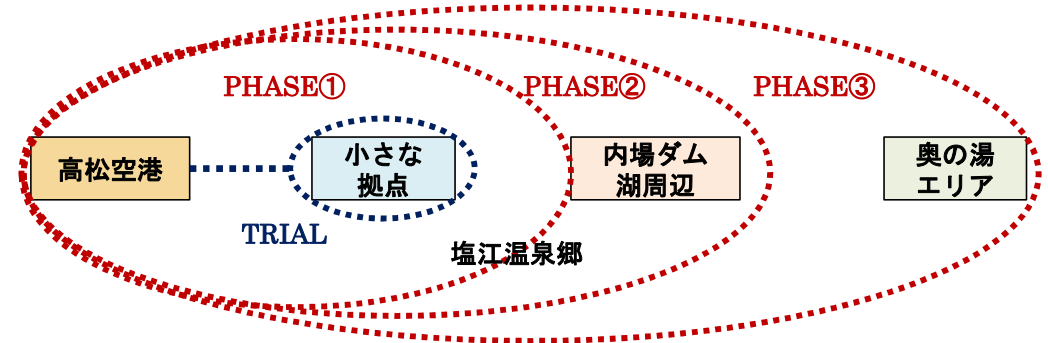
検討結果②高松空港や地元地域と連携したインバウンド誘客の推進体制

- 小さな拠点の管理運営者と地元地域がインバウンド誘客を推進し、その活力を地域の活性化や愛着醸成に繋げる共創体制を検討
- 「コンテンツ造成・人材・ガイド育成」、「持続可能な交通網」、「広報・PR・誘致」、「災害時対応」、「まちづくり」の5つのテーマについて地元組織や高松空港と議論する場を設けながら、各組織の代表者が一堂に会する場を新たに作り、インバウンド等の活力の取込みを推進



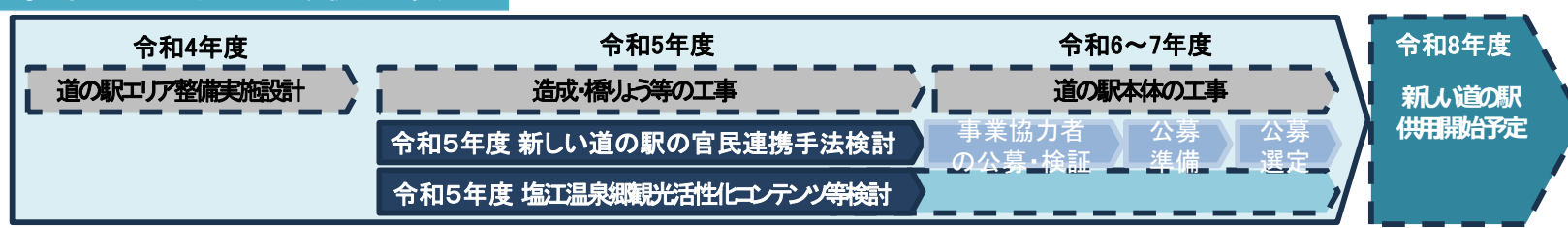
検討結果③官民連携によるエリアマネジメントとインバウンド等の活力を活用した奥の湯エリアの再興

- 小さな拠点を核とした官民連携による活力と高松空港等と連携したインバウンドの取り込みにより、小さな拠点の活性化を奥の湯エリア全体の活性化へ波及
- 点在する施設や資源を繋ぐ持続可能な交通網の構築にインバウンドの活力(資金の流れ)を繋げる仕組みが重要であり、技術や経験を有する様々な事業者と共創が推進される自由度の高いコンセッション方式へ段階的に移行を検討



	TRIAL: R6~	PHASE①: R8~12	PHASE②: R13~	PHASE③: 将来
事業手法	事業協力者	指定管理者制度	指定管理者制度	コンセッション方式
管理運営の対象	事業協力者の提案を基に各種検証を実施	新しい道の駅 奥の湯キャンプ場 温泉水給水事業	新しい道の駅 奥の湯キャンプ場 温泉水給水事業 交通事業	新しい道の駅 奥の湯キャンプ場 温泉水給水事業 交通事業
持続可能な交通網	トライアル期間		小さな拠点や内場ダム湖周辺で自走化	奥の湯エリア周辺へ拡大
インバウンド誘客	高松空港等との連携強化/地元地域と連携したコンテンツ造成/観光人材育成/塩江内外の関係者と連携した広報活動 等			奥の湯キャンプ場のグレードアップ 奥の湯エリアの活性化

事業化に向けた今後の展望



○事業化の課題

- 小さな拠点の管理運営者と連携可能な地元地域の共創体制構築・機運醸成
- 事業協力者と連携した交通事業等の各種検証